

## 病虫害発生予察特殊報 第4号

害虫名：レタスヒゲナガアブラムシ  
学名：*Nasonovia ribisnigri* (Mosley)  
発生作物：レタス

### 1 発生確認経過

本年7月、名古屋植物防疫所で実施した輸出検査において、東信地方のレタスからレタスヒゲナガアブラムシが発見された。

これを受けて県病虫害防除所では、名古屋植物防疫所、県野菜花き試験場及び農業改良普及センターとともに8月に現地栽培ほ場でアブラムシ類を採取し、名古屋植物防疫所において同定したところ、レタスヒゲナガアブラムシが確認された。

本種はヨーロッパ原産と考えられている害虫であり、本年3月に香川県、5月に福岡県で発生が確認され、特殊報が発表されている。長野県内では初めての確認である。

### 2 形態

幼虫は黄緑色で翅がなく、成虫は有翅虫と無翅虫がある。無翅雌成虫の体形は紡錘形、体長は約2.5mm程度、体色は黄緑色～赤桃色で変化に富み、腹部背面に暗褐色の斑紋を有する。

ジャガイモヒゲナガアブラムシやチュールリップヒゲナガアブラムシは、この部分がほぼ一様に淡緑色～緑色で斑紋を欠くことにより識別できる。ただし幼虫ではこの斑紋が現れない。

### 3 生態と被害

発生国の調査では、本種はレタスなどの寄主植物を吸汁加害し、レタスモザイクウイルスなどの植物病原性ウイルスを媒介する害虫として知られている。

レタスでは、他のアブラムシ類が初期に外葉上に生息するのに対して、本種は新葉を好んで加害し、巻き葉の中や結球内部に入り込み増殖する性質を有する。リーフレタスなどの結球しない作物では、内部の葉や折りたたまれた葉に寄生する。このため、ほ場での発生に気づくのが遅れるおそれがある。

発生が認められた現地ほ場では、天敵としてテントウムシ類、ヒラタアブ類幼虫、アブラバチ類などが確認されている。

### 4 防除対策

- (1) 本種は発生初期からレタスの結球内部に入り込むため、殺虫剤の効果を得にくい難防除害虫である。
- (2) アブラムシ類に登録のある薬剤で防除を行う。
- (3) 定植時のアクタラ粒剤5またはモスピラン粒剤の株元散布は、定植直後から新葉部分の加害を防ぐ効果が期待できる。
- (4) 結球期前の定期的な防除で、結球内部に入りこませないようにする。
- (5) ジノテフラン(スタークル・アルバリン)剤は、香川県の報告では効果がやや劣るので注意する。



図1 有翅虫



図2 無翅虫



図3 リーフレタスに寄生



図4 図3の部分拡大

写真提供：野菜花き試験場佐久支場

長野県病虫害防除所  
所長 宮島明博  
担当 武井正明  
TEL：026-248-6471（直通）  
FAX：026-248-6473  
E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp